国　史　跡

赤　阪　城　跡

千早赤阪村埋蔵文化財調査報告書　第３輯

２００４．３

千早赤阪村教育委員会

国　史　跡

赤　阪　城　跡

千早赤阪村埋蔵文化財調査報告書　第３輯

２００４．３

千早赤阪村教育委員会

はしがき

大阪府下で唯一の村である千早赤阪村は、南北朝動乱の舞台の１つとなった地として『太平記』などの書物に登場します。『太平記』によれば楠木正成は赤阪城・千早城において様々な策をめぐらせて、数少ない兵力ながら幕府軍に応戦したことが記されています。

その赤阪城跡には、『日本の棚田百選』に選ばれた「下赤阪の棚田」が所在します。

本村では、これら歴史的遺産と文化的遺産の両方を活かした史跡整備を目指しております。

本報告書はその整備に伴う調査成果を記したものです。

調査の実施及び遺物整理にあたっては、多くの方々のご理解・ご協力を賜りました。厚く御礼申し上げます。

今後とも本村の文化財行政にご理解・ご協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。

平成16年３月

千早赤阪村教育委員会

教育長　大　西　清　和

例　　言

1　本書は、平成14・15年度に行われた国史跡赤阪城跡における史跡整備に伴う埋蔵文化財調査報告書である。

2　調査は、千早赤阪村教育委員会 指導課 主事 和泉大樹 を担当者として、平成14年度は平成14年6月11日から平成14年6月19日の期間で、平成15年度は平成15年10月2日から平成15年11月20日の期間で行った。また、各々、引き続き整理作業を行い、平成15年3月31日及び平成16年3月31日に完了した。

3　本書の執筆・編集は和泉が行った。

4　調査の実施及び本書の作成にあたっては次の方々の参加を得た。(順不同・敬称略)
　岩子勤・岩子苑子・谷口夫抄子・福田夏子・周藤光代・前川篤史

5　現地調査及び遺物整理において下記の機関・方々にご協力頂きました。記して感謝の意を表します。(順不同・敬称略)
　文化庁・大阪府教育委員会・富田林消防署千早赤阪分署・千早赤阪村立中学校
　社団法人楠公史跡保存会・千早赤阪村役場事業部建設課・千早赤阪村教育委員会管理課
　村田修三・増田昇・高瀬要一・広瀬和雄・瀬川健・山本彰・田中和弘・芝野圭之助・
　三宅正浩・森井貞雄・服部文章

6　挿図の方向は国土座標に基づく座標北を示し、標高はT．Pで表示した。

7　第2図周辺遺跡分布図の桐山遺跡は現在範囲が拡大しているが、本書では拡大前のものを用いている。

目　　次

はしがき
例言
目次
1．はじめに
（1）調査の契機 …… 1
（2）調査地周辺の歴史的環境 …… 1
2．調査の成果
（1）平成14年度調査の成果 …… 4
（2）平成15年度調査の成果 …… 10
3．まとめ …… 13

挿図・写真目次

第1図　千早赤阪村位置図 …… 1
第2図　周辺遺跡分布図 …… 3
第3図　調査トレンチ・調査区位置図 …… 5
第4図　平成14年度調査トレンチ位置図（1） …… 7
第5図　平成14年度調査トレンチ位置図（2） …… 8
第6図　平成14年度調査トレンチ模式断面図 …… 9
第7図　平成15年度調査区平面図 …… 10
第8図　平成15年度調査区断面図 …… 11～12

図　版　目　次

図版1　①～⑮トレンチ
図版2　調査区Ⅰ遠景・調査区Ⅰ北側・断面①
図版3　調査区Ⅰ中央部・断面②・調査区Ⅰ中央部南端
図版4　調査区Ⅰ平坦部北側・調査区Ⅰ平坦部南側・調査区Ⅱ

１．はじめに

（１）調査の契機

本村には南北朝時代、幕府軍に応戦するために楠木正成が築いた山城跡が多く点在する。なかでも、『太平記』に登場する千早城跡・楠木城跡・赤阪城跡の３城跡については、昭和９年３月13日に国史跡に指定されている。これらの３つの山城跡は昭和９年という比較的早い段階での指定で今日まで長い時間を経ており、様々な問題が生じている。例えば、史跡内土地所有者が代替わりしており、現在の所有者がその地が史跡であることを理解していない、史跡境界が不明確であるなど。そこで本村では、それらの問題を解消し、史跡を恒久的に保存・管理・活用していくために、平成７年度に『国史跡千早城跡・楠木城跡・赤阪城跡保存管理計画策定委員会』を設置し、平成11年度に『国史跡千早城跡・楠木城跡・赤阪城跡保存管理計画』を策定、続いて史跡整備に向けて平成13年度に『国史跡千早城跡・楠木城跡・赤阪城跡整備計画策定委員会』を設置し、本村の特色を十二分に活かした史跡整備を目指している。そこでまずは現状変更が最も多い史跡赤阪城跡の見学道の改修、平成15年度に策定した『史跡赤阪城跡整備基本計画』に従い眺望学習広場整備を行うこととなり、以下、それら両整備に伴う調査結果について記す。

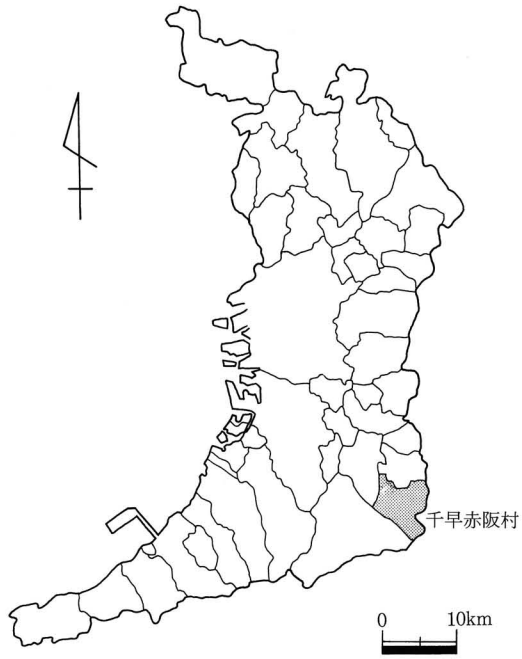
なお、これらの整備事業については史跡赤阪城跡内に『日本の棚田百選』に選ばれている『下赤阪の棚田』が所在することもあり、本村事業部と連携を取りながら進め、調査等に係る費用の一部については本村事業部側の補助金等を用いて行った。

（２）調査地周辺の歴史的環境

千早赤阪村は大阪府の南東部に位置する。行政区では北・西・南側を河南町・富田林市・河内長野市と、東側を南北に連なる金剛山地を境に奈良県御所市・五條市と接する。その金剛山地から北へと延びる丘陵上に調査地は位置する。

本村では現在旧石器・縄文・弥生時代の生活痕跡はほとんど確認されていないものの、楠公誕生地遺跡や大廻遺跡などから縄文時代後期磨消縄文の深鉢片や石器類が数点出土している。また、巨視的に周囲を見れば約２㎞北側に位置する河南町の神山遺跡からは縄文早期押型文土器・前期条痕文土器・後期磨消縄文土器などの土器片が出土している。

調査地周辺の古墳時代の遺跡は森屋古墳群・御旅所北古墳・御旅所古墳・浄心寺山古墳などがある。調査地北側に位置する森屋古墳群は６基あったとされているが、いずれの古墳も昭和20年代に道路の設置やみかん山の開墾などにより消滅しており現在では見る影もない。しかし、中村編年Ⅱ型式１・２段階の脚付有蓋子持壺・台付壺、同３段階の子持器台



第１図　千早赤阪村位置図

などが付近から採集されている。調査地の北東に位置する御旅所北古墳・御旅所古墳は本村で発掘調査を行った唯一の古墳である。調査は昭和56・57年に行われており、御旅所北古墳からは周溝や縄掛突起をもつ組合式家型石棺２基が確認されている。調査地の南西に位置する浄心寺山からはみかん山開墾時に中村編年Ⅱ型式５段階の杯蓋が採集されている。

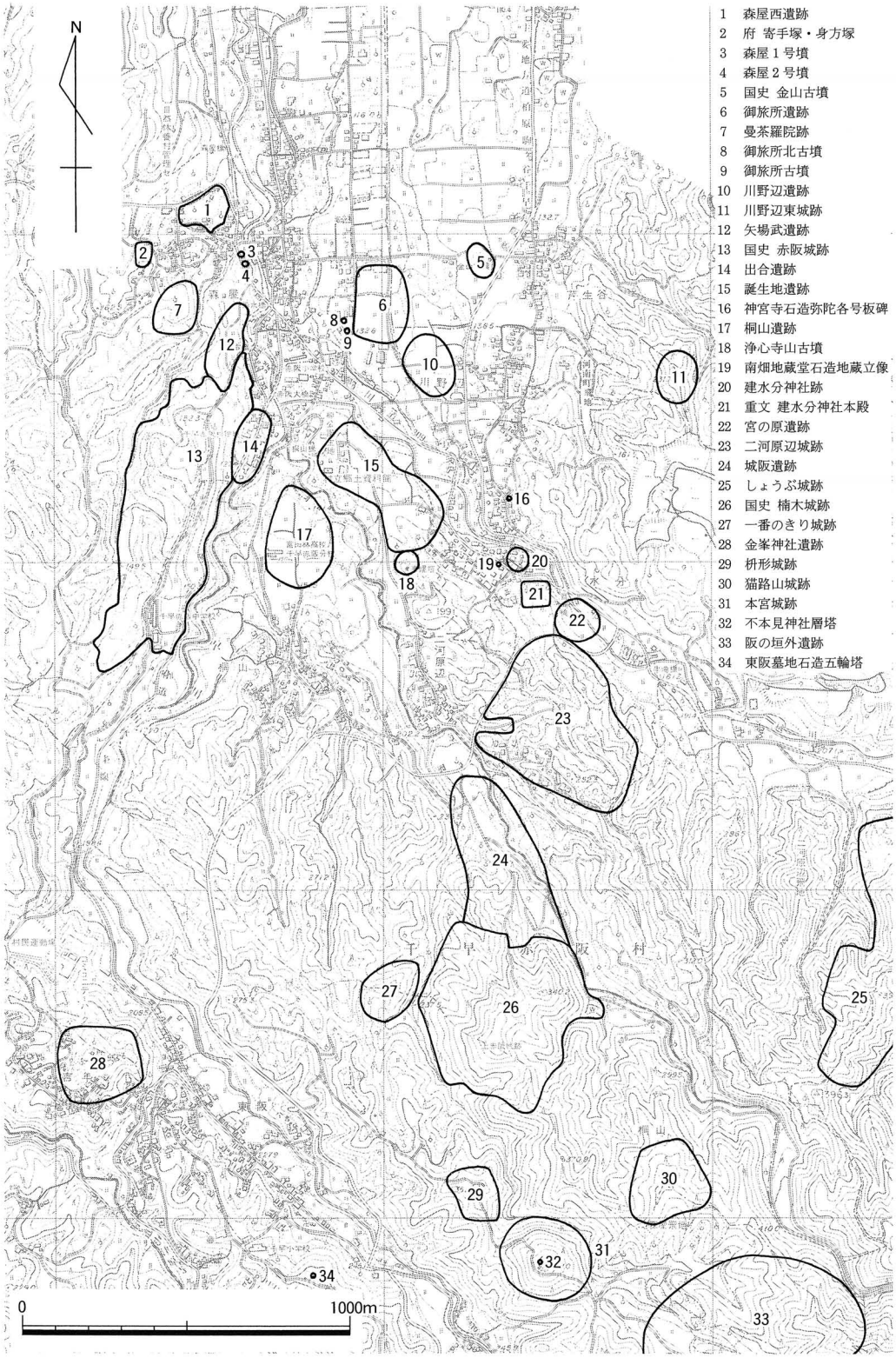
楠公誕生地遺跡・森屋西遺跡・御旅所遺跡などからは飛鳥・奈良時代の遺物・遺構を確認している。楠公誕生地遺跡からは平成14年度の調査で史跡赤阪城跡からは丘陵の裾部を調査した際に飛鳥Ⅰ・Ⅱ、平城段階の土器が出土している。森屋西遺跡からは詳細は不明であるが、みかん山開墾時に蔵骨器と考えられる有蓋の須恵器が採集されている。調査地の北東側に位置する御旅所遺跡からは奈良時代の掘立柱建物や溝が確認されている。

本村は南北朝動乱の舞台の１つとなった場所であり、多くの中世の遺跡が存在する。山城跡は昭和９年という比較的早い段階で史跡指定を受けた千早城跡・楠木城跡（上赤坂城跡）・赤阪城跡（下赤坂城跡）をはじめ、二河原辺城跡・本宮城跡・しょうぶ城跡・枡形城跡・猫路山城跡・国見山城跡など多数存在する。館跡と考えられる遺跡としては、楠公誕生地遺跡や桐山遺跡などがある。楠公誕生地遺跡は平成３・４年にかけて「くすのきホール」建設に伴って発掘調査が行われており、14世紀の２重の堀に囲まれた建物跡を確認している。また、付近には「楠公産湯の井戸」の伝承地が残る。桐山遺跡は建武の中興以降の楠木邸跡と伝えられており、「古屋敷」・「花屋敷」・「光明院跡」などの小字名が残り、中世の瓦や土器片が採集されている。他にも森屋西遺跡・矢場武遺跡・曼荼羅院跡・出合遺跡・川野辺遺跡などの中世の遺跡がある。また、調査地周辺には「矢場武」・「甲取」・「城ヶ越」など城跡と関連があると考えられる小字名が残る。

これら埋蔵文化財包蔵地・伝承地などの他にも、森屋惣墓にある河南町寛弘寺神山墓地の正和四年の銘のある五輪塔とほぼ同じ時期の石造五輪塔「寄手塚」や南北朝時代のもので反花基壇上に塔を備え、大和系の製作手法が伺える石造五輪塔「身方塚」などの石造文化財や重要文化財である建水分神社など多くの文化財が点在する。

【参考文献】

和泉大樹　2000　「千早赤阪村の山城　上赤坂城跡採集遺物」『摂河泉』第30号
和泉大樹　2001　「千早赤阪村の消滅した古墳」『誕生地遺跡発掘調査概要Ⅲ』
尾谷雅彦　1996　「御旅所遺跡出土の韓式系土器」『韓式系土器研究Ⅳ』
千早赤阪村教育委員会　1983　『御旅所・御旅所北古墳調査報告書』
千早赤阪村教育委員会　1995　『誕生地遺跡発掘調査概要Ⅰ』
千早赤阪村教育委員会　2000　『国史跡赤阪城跡　千早赤阪村埋蔵文化財調査報告書　第２輯』
千早赤阪村村誌編さん委員会編　1980　『千早赤阪村誌』　千早赤阪村役場
福澤邦夫　1994　『千早赤阪の石造文化財Ⅰ　千早赤阪村文化財調査報告書　第４集』
千早赤阪村教育委員会



第２図　周辺遺跡分布図（1/2, 000）

2．調査の成果

（1）平成14年度調査の成果

改修を行う見学道部分（延長925.0m）に長さ10.0m、幅1.0mのトレンチを15箇所設定した。最南端のトレンチを①トレンチとし、最北端のトレンチを⑮トレンチという具合に南側から順に数字で記号化した。

見学道は南から北へとその標高を低くする。①～④トレンチは丘陵のピーク地点に該当するため、掘切などの防御施設の検出、⑩～⑬トレンチはその西側に本丸跡の伝承が残るため柵列・建物等の遺構の検出などを念頭に置きながら調査を行った。

なお、調査トレンチの設置箇所については国史跡千早城跡・楠木城跡・赤阪城跡整備計画策定委員会から指導を得た。

以下、トレンチごとに記す。

①トレンチ

厚さ5.0cmのアスファルトを除去すると、攪乱層が堆積していた。その下位で地山を確認したため精査を行ったが、遺構は検出できなかった。

また、遺物も出土しなかった。

②トレンチ

厚さ6.0cmのアスファルトを除去すると、攪乱層が堆積していた。その下位で地山を確認したが、地山は2次的に堆積した様を呈する。これは見学道をつくる際に動かされたためであると考えられる。この面で精査を行ったが、遺構は検出できなかった。

また、遺物も出土しなかった。

③トレンチ

厚さ5.0cmのアスファルトを除去すると、攪乱層が堆積していた。その下位で地山を確認したため精査を行ったが、遺構は検出できなかった。

また、遺物も出土しなかった。

④トレンチ

厚さ12.0cmのコンクリートを除去すると、攪乱層が堆積していた。その下位で地山を確認したが、地山は2次的に堆積した様を呈する。この面で精査を行ったところ石列を検出したが、埋土の状況から現代田畑等の耕作による所産であると判断される。

また、遺物も出土しなかった。

第３図　調査トレンチ・調査区位置図

⑤トレンチ

厚さ12.0cmのコンクリートを除去すると、その直下で地山を確認したが、地山は見学道設置の際に動かされたため2次的な様を呈する。この面で精査を行ったが、遺構は検出できなかった。

また、遺物も出土しなかった。

⑥トレンチ

厚さ6.0cmのアスファルトを除去すると、攪乱層が堆積していた。その下位で2次堆積の様を呈する地山を確認した。遺構は検出できなかった。

また、遺物も出土しなかった。

⑦トレンチ

厚さ10.0cmのコンクリートを除去し、攪乱層を掘り下げるが、地山は確認できなかった。

また、遺物も出土しなかった。

⑧トレンチ

厚さ7.0cmのアスファルトを除去すると、攪乱層が厚さ70.0～80.0cm堆積していた。その下位で地山を確認したため精査を行ったが、地山は2次的に堆積した様を呈する。その面で精査を行ったが遺構は検出できなかった。

また、遺物も出土しなかった。

⑨トレンチ

厚さ6.0cmのアスファルトを除去すると、攪乱層を厚さ60.0～70.0cm掘り下げるが、地山は確認できなかった。

また、遺物も出土しなかった。

⑩トレンチ

厚さ3.0cmのアスファルトを除去すると、攪乱層が堆積する。地山は確認していない。

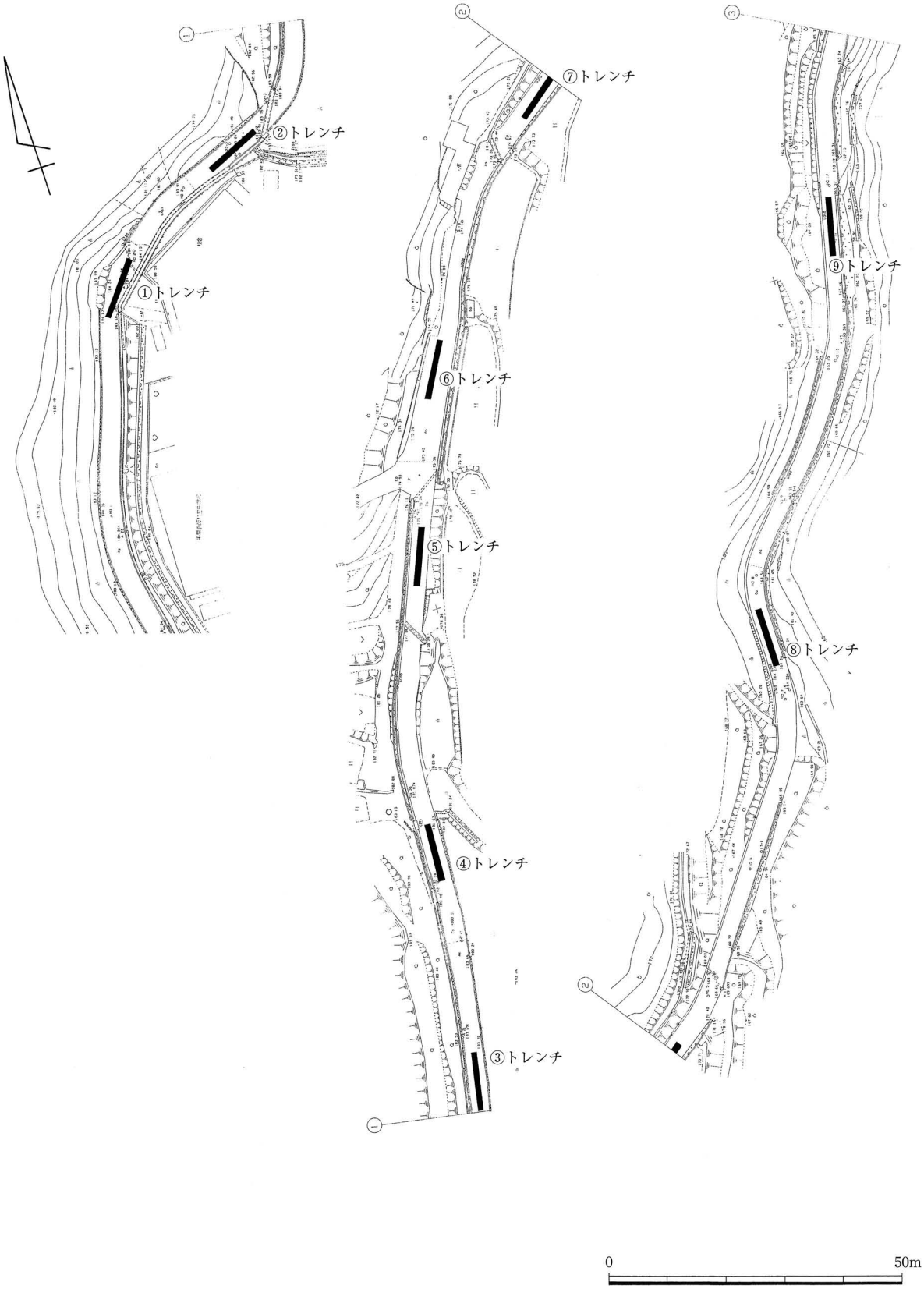
また、遺物も出土しなかった。

⑪トレンチ

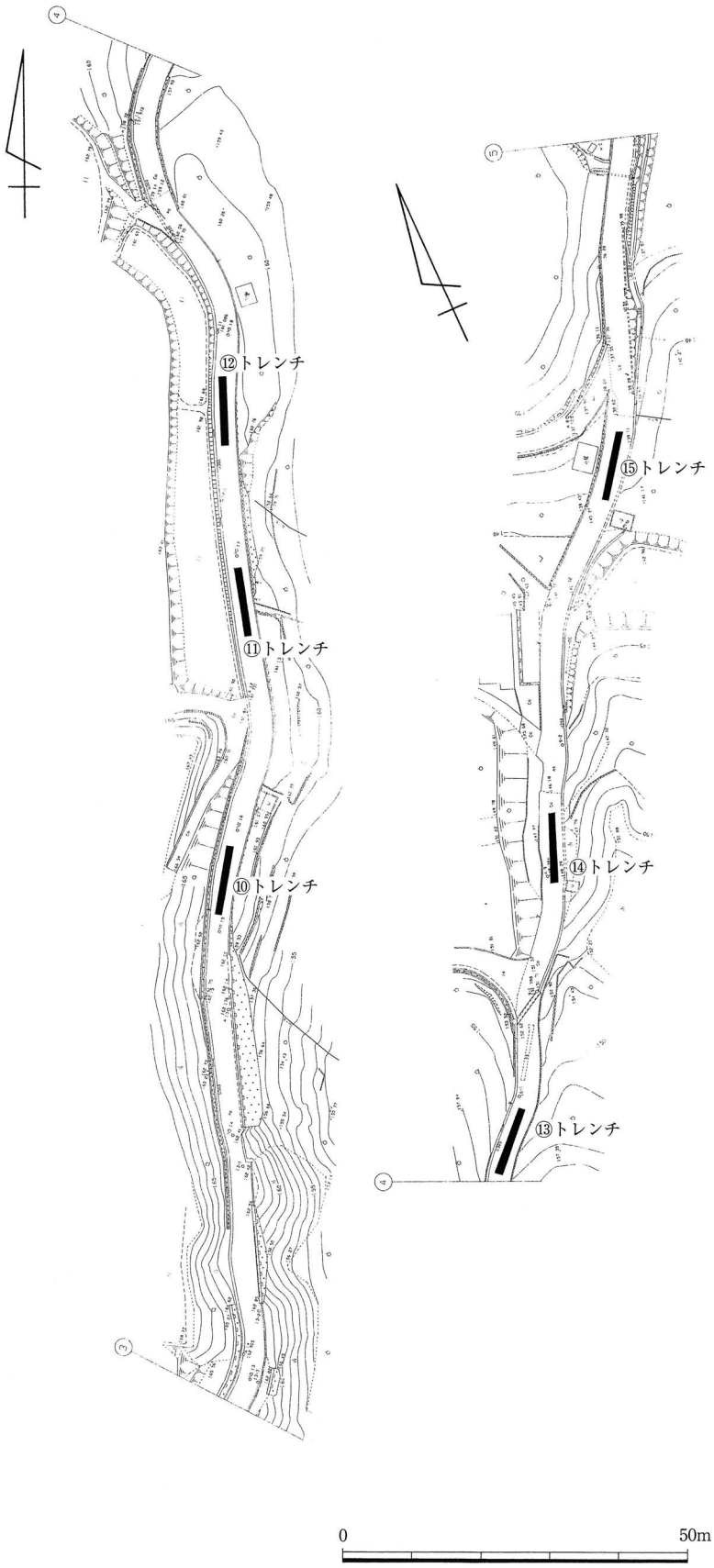
厚さ3.0～5.0cmのアスファルトを除去すると、攪乱層が堆積していた。その下位で地山を確認したため精査を行ったが、遺構は検出できなかった。

また、遺物も出土しなかった。

なお、地山はやや赤味を帯びる。



第４図　平成14年度調査トレンチ位置図（１）



第５図　平成14年度調査トレンチ位置図（２）

⑫トレンチ

厚さ5.0cmのアスファルトを除去すると、攪乱層が厚さ約25.0cm堆積していた。その下位で地山を確認したため精査を行った。結果、トレンチの東端に落ち込みを確認した。

また、攪乱層からの出土ではあるが伊万里片など近世の遺物が2点出土した。

なお、⑪トレンチと同様に地山はやや赤味を帯びる。このトレンチの西側には本丸跡の伝承が残る。

⑬トレンチ

厚さ9.0cmのコンクリートを除去すると、攪乱層が堆積していた。その下位で地山を確認したため精査を行ったが、遺構は確認できなかった。

また、遺物も出土しなかった。

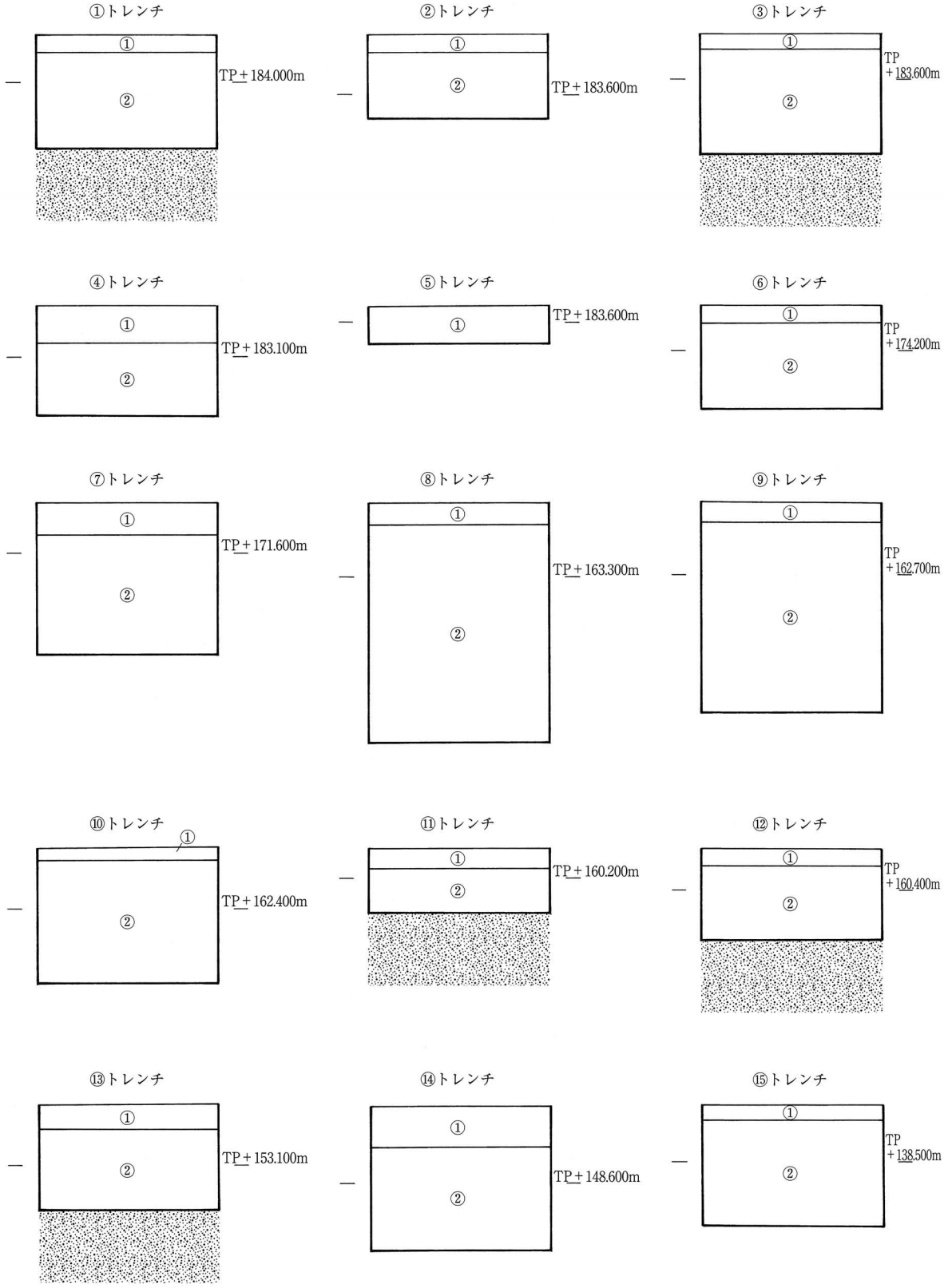
⑭トレンチ

厚さ15.0cmのコンクリートを除去すると、攪乱層が堆積していた。その下位で再度コンクリートを確認したため、それより下位は調査を行わなかった。

遺物は出土しなかった。

⑮トレンチ

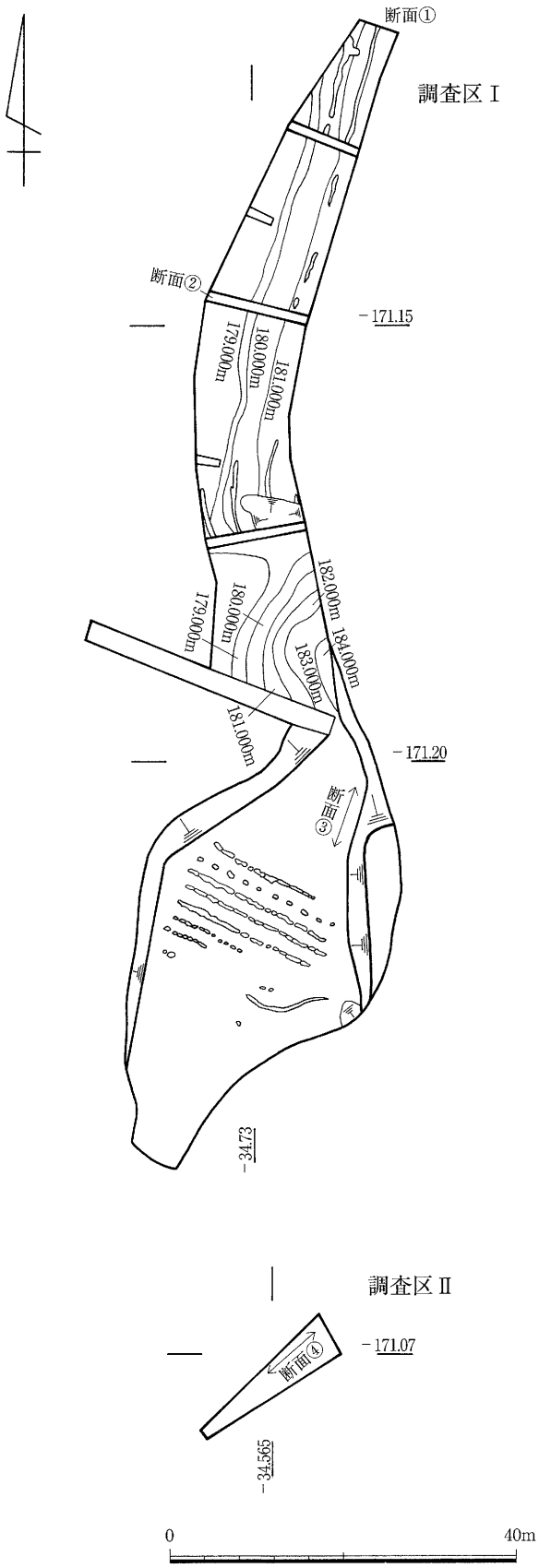
厚さ5.0cmのアスファルトを除去すると、攪乱層が堆積していた。その下位で水道管を確認したた



① 舗装（アスファルト、コンクリート）
② 現代攪乱

0　10cm

第６図　平成14年度調査トレンチ模式断面図



第７図　平成15年度調査区平面図

め、それより下位は調査を行わなかった。

遺物は出土しなかった。

（２）平成15年度調査の成果

平成15年度は眺望学習広場整備予定箇所及び見学道入口部改修箇所について調査を行った。前者を調査区Ⅰ、後者を調査区Ⅱと記号化した。調査面積は各々、1808.5m²、64.9m²を測る。調査区Ⅰは土置場等の関係から北側・中央部・平坦部北側・平坦部南側の４区に分割して調査を進めた。

以下、調査区ごとに記す。

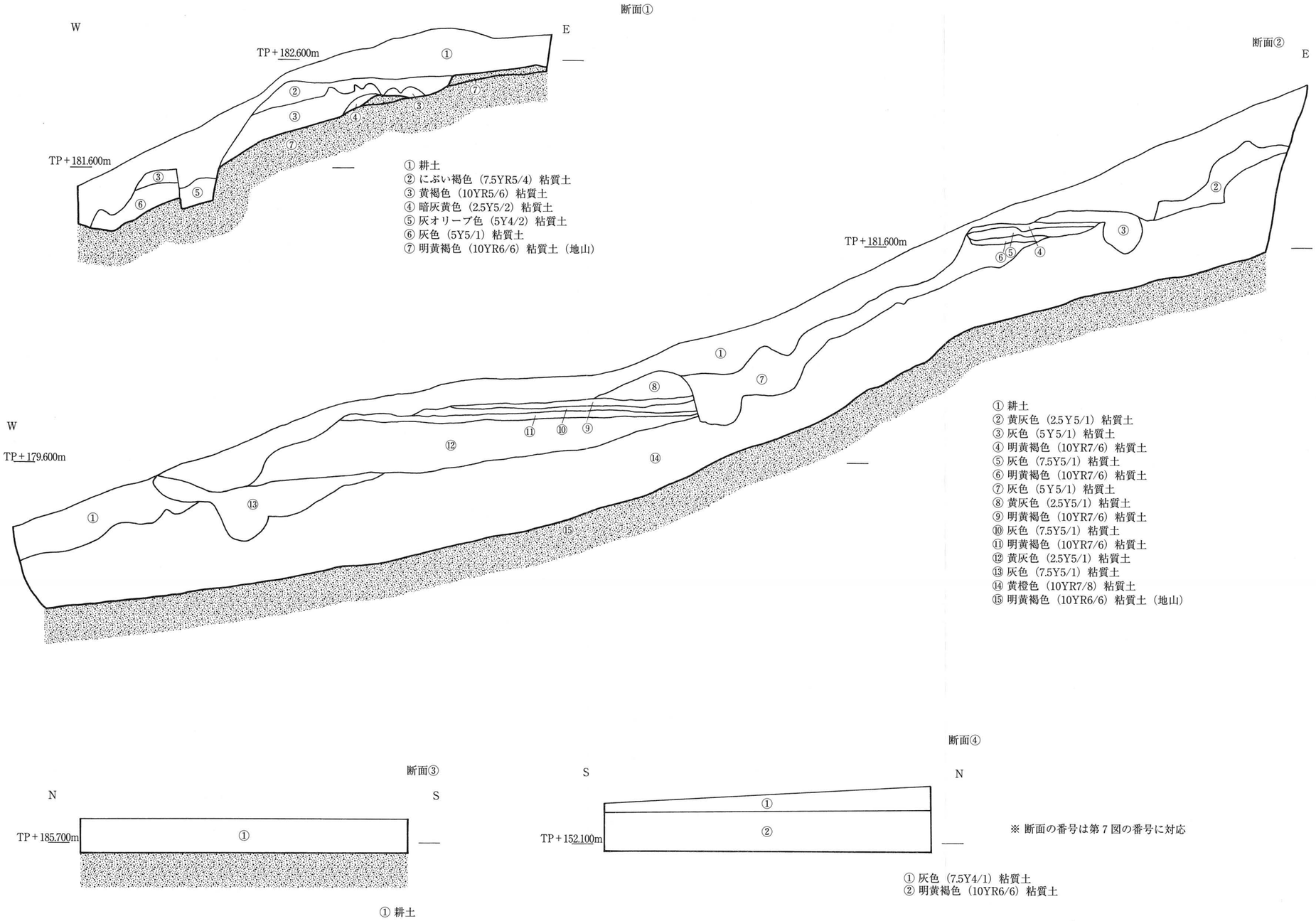
調査区Ⅰ

当該調査区は北側・中央部は東から西へと低く傾斜する斜面地であり、その東端上位は丘陵のピーク部にあたる。これに比して調査区の南側は斜面地ではなく、平坦な地形を呈する。

調査区北側では耕土・田・田床土・田造成土を除去すると地山が確認できる。地表面から約50cmの深さである。地山面で精査を行ったところ棚田畦の痕跡を検出した。そこから遺物は出土していないが、地元の高齢耕作者がみかん山から田、さらにみかん山になったことを記憶していることから考えれば、この箇所の棚田は現代の所産であると判断できる。その他の遺構は検出していない。また、遺物も出土していない。

調査区中央部では先の北側に比して地山検出の深度が深い。地山は不安定であり地すべり等で２次堆積になっている様を呈する箇所もある。中央部南端は谷地形であった。この中央部でも棚田畦の痕跡や田・田床土の繰返堆積が確認できた。遺構・遺物は確認していない。

調査区平坦部では約30～40cmの耕土を除去すると直下で地山を確認した。平坦部では一様にこのような堆積状況であった。調査区平坦部では列を



第８図　平成15年度調査区断面図

成す土坑群を検出したが、これらの埋土中からビニール等が確認できたため現代攪乱と判断できた。この状況から察すると、現況がみかん山であったため樹木根の影響で顕著でなかったが、この土坑群は耕土から掘り込まれている可能性が高い。地元耕作者の話ではみかん等の果樹に肥を与える際に、樹木列に沿ってこのような穴を掘り、そこに肥を入れたということである。なお、周囲の状況等からこの地山面は全体に削平され、このような様を呈していると思われる。遺物は耕土から伊万里片１点が出土したのみである。

調査区Ⅱ

調査区Ⅱは見学道改修整備予定箇所である。水田耕作等関係層を除去すると直下で地山を確認した。地山は２次堆積の様を呈する。遺構・遺物は確認していない。

３．まとめ

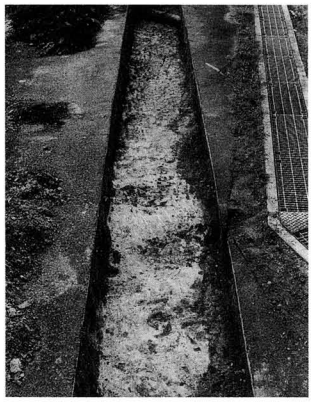
以上、平成14年度及び平成15年度に実施した調査成果について記した。

どちらの年度の調査についても地山等の堆積は２次的な様を呈している箇所が多く確認された。

また、地元高齢者に行った聞き取りからも戦前から戦中にかけて調査対象地が大きく改変されている様が窺えた。しかし、本丸跡の伝承が残る付近は曲輪のような形状を呈する田が連なっている箇所も認められ、整備に向けて今後も調査を継続し、その成果に期待したい。

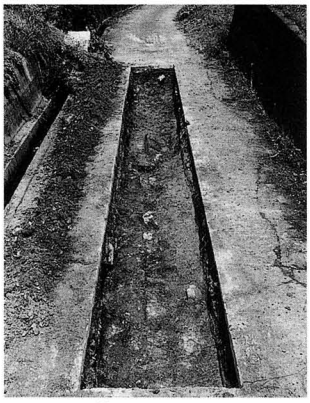
図　　版

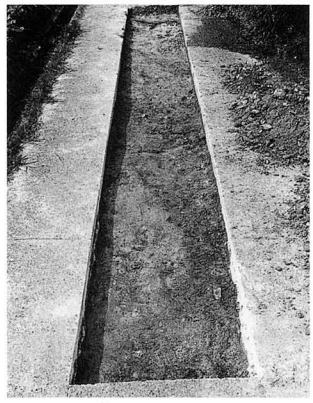
図版一　①～⑮トレンチ

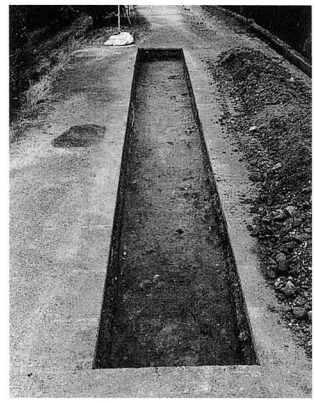

①トレンチ

②トレンチ

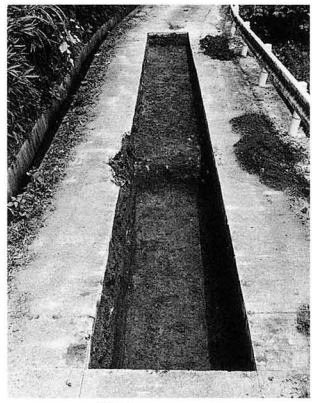
③トレンチ


④トレンチ


⑤トレンチ


⑥トレンチ

⑦トレンチ


⑧トレンチ

⑨トレンチ

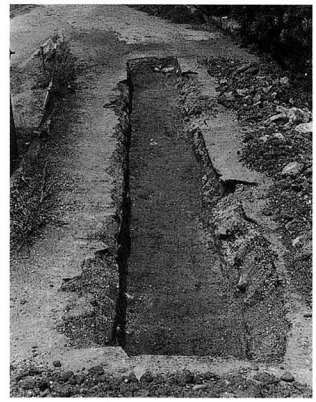
⑩トレンチ

⑪トレンチ

⑫トレンチ

⑬トレンチ

⑭トレンチ


⑮トレンチ

図版二　調査区Ⅰ遠景・調査区Ⅰ北側・断面①

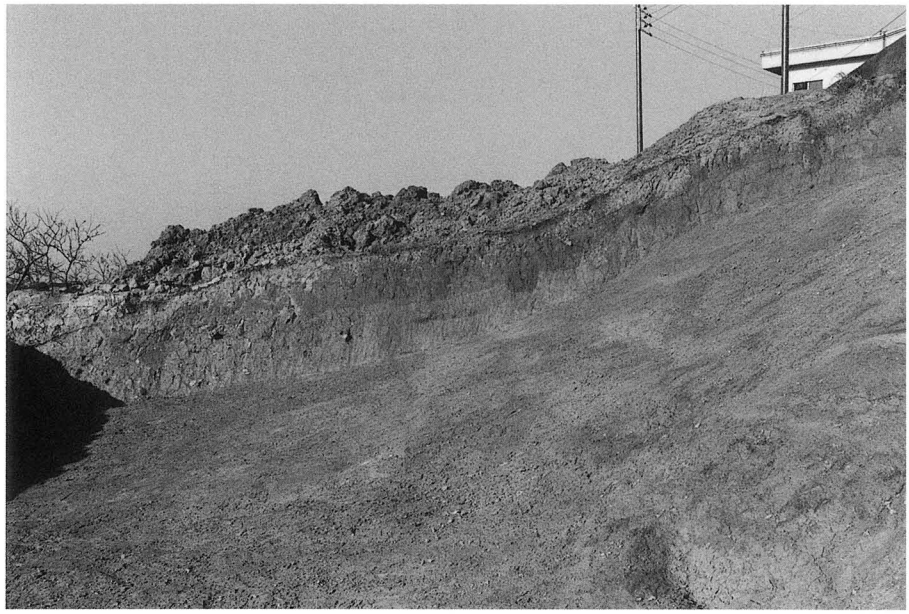
調査区Ⅰ遠景

調査区Ⅰ北側

断面①

図版三　調査区Ⅰ中央部・断面②・調査区Ⅰ中央部南端

調査区Ⅰ中央部

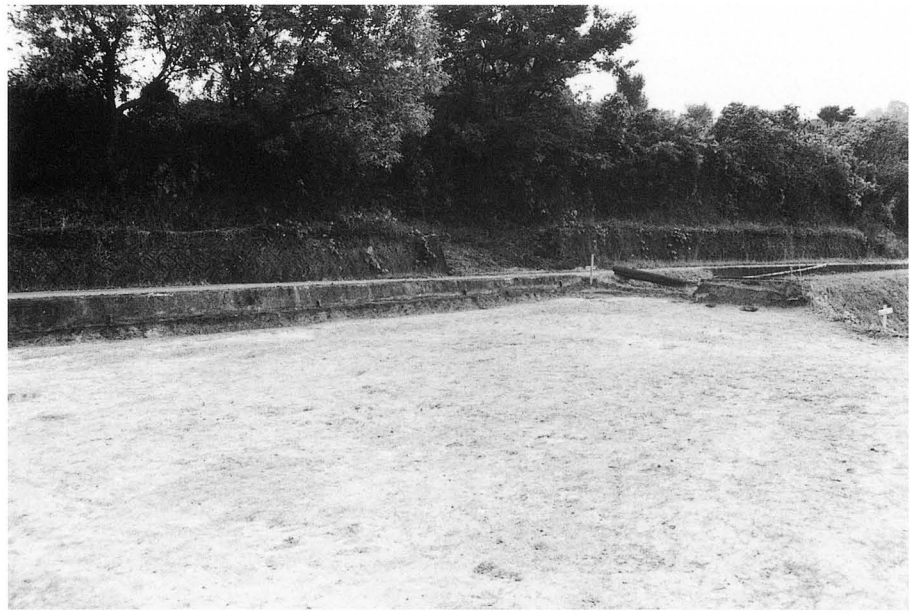


断面②

調査区Ⅰ中央部南端

図版四　調査区Ⅰ平坦部北側・調査区Ⅰ平坦部南側・調査区Ⅱ

調査区Ⅰ平坦部北側



調査区Ⅰ平坦部南側

調査区Ⅱ

報　告　書　抄　録

ふりがな	くにしせき　あかさかじょうし
書名	国史跡　　赤阪城跡
副書名	
巻次数	
シリーズ名	千早赤阪村埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第3輯
編集著者名	和泉大樹
編集機関	千早赤阪村教育委員会
所在地	〒585-0041　大阪府南河内郡千早赤阪村大字水分263番地
発行年月日	西暦2004年　3月　31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °′″	東緯 °′″	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
史跡(しせき) 赤阪城跡(あかさかじょうし)	大阪府(おおさかふ) 南河内郡(みなみかわちぐん) 千早赤阪村(ちはやあかさかむら) 大字森屋(おおあざもりや)・ 水分(すいぶん)・東阪(あずまざか)	27383		34° 27′ 38″	135° 37′ 15″	2002.06.11. ～ 2002.06.19. 2003.10.02. ～ 2003.11.20.	150m² 1873.4m²	見学道整備 眺望学習広場整備

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
史跡(しせき) 赤阪城跡(あかさかじょうし)	城館跡	南北朝			

国史跡　赤　阪　城　跡

千早赤阪村埋蔵文化財調査報告書　第３輯

2004年３月31日

発　行　　千早赤阪村教育委員会

千早赤阪村大字水分２６３番地

０７２１－７２－１３００

印　刷　　（株）中島弘文堂印刷所